

ビワ生育情報

第 1 報
千葉県農林水産部
令和 8 年 10 月号

本年の花房発現期は「楠」、「大房」、「田中」の 3 品種とも平年より早いです。
10 月からは摘房・摘蕾を行います。適期に作業し、花房の充実を図りましょう。

花房及び樹の発育

花房発現（出蕾）期は表 1 のとおりである。「楠」は 9 月 10 日で、平年より 5 日、前年より 9 日早かった。「大房」は 9 月 14 日で、平年及び前年より 5 日早かった。「田中」は 9 月 7 日で、平年より 8 日早く、前年より 9 日早かった。花房発現期は、3 品種とも平年より早かった。

着花房枝率は平年並みの傾向にある。9 月の低日照による樹の生育への影響は 10 月 1 日時点ではみられていないが、摘房・摘蕾を適切に行い、養分の浪費を軽減し、残した花房の充実を図ることが重要である。

表 1 花房発現期（暖地園芸研究所）

品種	本年 (月. 日)	平年 (月. 日)	前年 (月. 日)
楠	9. 10	9. 15	9. 19
大 房	9. 14	9. 19	9. 19
田 中	9. 7	9. 15	9. 16

平年：平成 8 年～令和 7 年の 30 年間の平均

花房発現期：中心枝の 10%が出蕾した時期

令和 8 年 7～9 月の気象

令和 8 年 7～9 月の気象を表 2 に示した。7 月の月平均気温は 26.6℃で、平年より 1.4℃高く、前年より 1.0℃低かった。降水量の月合計は 54.5mm で、平年の 31%、前年の 105%であった。日照時間の月合計は 187 時間で、平年の 104%、前年の 71%であった。

8 月の月平均気温は 26.8℃で、平年より 0.1℃高く、前年より 1.6℃低かった。降水量の月合計は 270.5mm で、平年の 255%、前年の 933%であった。日照時間の月合計は 186 時間で平年の 86%、前年の 68%であった。

9 月の月平均気温は 23.6℃で、平年より 0.1℃低く、前年より 2.7℃低かった。降水量の月合計は 1,092mm で、平年の 492%、前年の 812%であり、観測史上 1 位を更新した。日照時間の月合計は 65 時間で平年の 42%、前年の 33%であった。

表 2 令和 8 年 7～9 月の気象（アメダス館山市）

月	半旬	平均気温 (℃)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7	1	23.3	23.8	27.3	50.0	37	0.0	9	23	30
	2	24.0	24.4	28.7	0.0	39	0.5	29	26	47
	3	27.0	25.0	25.7	0.0	34	42.0	26	28	14
	4	28.0	25.4	27.4	0.0	26	9.5	36	30	41
	5	29.4	25.9	28.3	0.0	21	0.0	47	32	62
	6	27.9	26.4	28.0	4.5	19	0.0	40	42	70
平均/計		26.6	25.2	27.6	54.5	176	52.0	187	179	264

月	半旬	平均気温 (℃)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
8	1	27.4	26.8	28.6	0.5	12	17.5	31	37	42
	2	27.7	27.0	28.7	6.5	14	11.5	39	37	32
	3	25.6	26.9	26.9	252.0	18	0.0	22	36	22
	4	25.9	26.7	28.4	3.5	19	0.0	35	35	56
	5	27.8	26.5	28.8	8.0	19	0.0	43	34	54
	6	26.5	26.1	28.8	0.0	24	0.0	17	38	66
平均/計		26.8	26.7	28.4	270.5	106	29.0	186	218	272
9	1	25.6	25.7	28.2	18.5	28	106.5	8	30	30
	2	24.4	25.2	27.7	443.5	36	0.0	13	29	48
	3	23.6	24.3	27.1	61.0	39	21.5	15	27	24
	4	22.7	23.3	26.6	198.0	39	2.0	3	25	28
	5	23.9	22.3	23.2	281.0	40	0.0	26	22	38
	6	21.5	21.4	24.9	90.0	40	4.5	0	21	32
平均/計		23.6	23.7	26.3	1,092.0	222	134.5	65	153	200

平年：平成3年～令和2年の30年間の平均

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

10～11月の管理

11月中旬には主要品種の開花が始まる。10月から引き続き行っている摘房・摘蕾は開花前に終わらせたい。アブラムシの防除は摘房・摘蕾の終了後に行う。

摘房・摘蕾

10月から11月にかけて摘房・摘蕾を行う。摘房では最終的な着果房枝率（全ての枝に対して果房が着生する枝の割合）が約60%になるように調整する。發育不良の花房や混み合った花房等を間引いて1樹内の花房数を調整する。

摘房を行うと、残した花房が充実するので、開花、結実及び幼果の初期生育が良好に進み、品質の揃った果実を生産することができる。また、余分な花房が少なくなるので、摘果作業が軽減される。

摘房と同時に摘蕾を行う。摘蕾では花房基部から3段目までの小花梗枝（花房の枝）の中から充実した2段を残して他をかき取り、花房内の花数を調整する。摘蕾は、残された蕾の充実を促すので、摘房と同様の効果がある。花房の長さが3～5cmに生長して、下部の2～3段の小花梗枝が分離した頃が作業しやすく、花房全体の開花期を延長することができる。開花期の延長により、幼果の発達時期を遅らせ、寒害を回避しやすくなるので、この時期を逃さずに摘蕾を行う。

アブラムシの防除

ビワに寄生するナシミドリオオアブラムシはビワの葉裏の主脈に沿って加害する。寄生された葉は紅(黄)葉し、ナシミドリオオアブラムシが次々と加害しながら繁殖していくので、短期間のうちに甚だしい落葉を見ることがある。また、排泄物はすす病を誘発するため、樹勢が著しく低下する場合もある。防除は発生状況を見て随時行う必要があるが、発生初期が効果的である。11月には他の植物からアブラムシが移り、繁殖期に入るので、この時期の防除は重要である。

発行：千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/seiiku-zyoho.html>